（管理規則第３条実施要領　別紙様式）

２０２５年度（令和７年度）学校評価自己評価表

神辺中学校区	校番　７７	福山市立湯田小学校
	最終更新日	2025年（令和７年）４月１日

2025．4.7 現在

Ⅰ　福山市

ミッション　福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン　各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

Ⅱ　中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容

○校区合同で教材研究や交流を進められ、よりわかる授業を追求している。
○「生活につなげる」「将来につながる」授業実践を続けている。

●課題を共有し、引き続け児童生徒に寄り添い実態に応じた取組を重ねてほしい。
●地域とのつながりを広げてほしい。

児童生徒の現状

○自分で目標を立て、友達と学び合いながら「考える・選ぶ・決める」経験を積み重ねることにより、「学びが面白い」と実感する児童生徒が増えてきた。
○自分たちが学校を創る主体となり、試行錯誤しながら創意工夫することを楽しむ児童生徒の姿が見られる。
●家庭学習時間が少ない。スマホやゲームの利用時間が長い。

育成する資質・能力	学びに向かう力　　コミュニケーション力
めざす子ども像（義務教育修了時の姿）	共に学び、共に支え合いながら、未来を切り開き、地域・社会に貢献する生徒
中学校区として統一した取組等	○　児童生徒が、授業での学びを日常の様々な場面で活用し行動できるようなる。 ○　児童生徒が、自己肯定感・自己有用感を高める。 ○　校種、教科・領域をこえた合同研修等を行う。

Ⅲ　自　校

ミッション

郷土に誇りを持ち、これからの社会を他者と協働しながら、たくましく、よりよく生きる子どもを育てる

学校教育目標

自ら考え、判断し、心豊かに行動できる子どもの育成

現　状

＜学校評価自己評価表最終時点＞
○教材研究を基にした「導入と展開の工夫と納得解に至る授業づくりに取組むことで、自分で「問い」を持ち楽しみながら学ぶ児童が 89%となった。
○学校行事や学校生活の中で自分自身や友達について認め合う相互評価に取り組むことで、「自分のよさ」における肯定的評価が 1～3 年で 86%、4～6 年 83%となった。
○体力向上に向け児童会企画の行事や体育委員会による運動コーナーに取組むことにより、運動における肯定的評価が 87%となった。
○学年団、各推進部で協働的に業務に取り組むことで、職員の「やりがい」における肯定的評価が 94.4%となった。
○学校行事等の教育活動について学校だより、学年だより、校長だより等を発信することで、「学校の様子が分かる」・「安心して相談できる雰囲気がある」の肯定的評価が 84.4%となった。

育成する資質・能力		A コミュニケーション　B 人としての思いやり　C 課題発見・課題解決
めざす子ども像	1･2 年	A　人の話を聴くことができ、自分の言葉で伝えることができる。 B　友達の良いところや頑張りを見つけることができる。 C　課題を理解し解決方法を考えたり解決しようとしたりする。
	3･4 年	A　自分の考えをもち、順序立てて分かりやすく伝えることができる。 B　一人一人の違いを理解し、受け入れることができる。 C　課題になる事柄を見つけ、既習の内容や生活経験を使って課題解決に向かうことができる。
	5･6 年	A　友達と自分の考えの相違に気を付けて聴きながら、筋道を立てて伝えることができる。 B　相手の立場に立って考え、立場や意見の違いによらす相手のことを考えた言動を取ることができる。。 C　課題になる事柄を見つけ、様々な方法で調べたり考えたりすることを通して、よりよく解決することができる。
研究	テーマ	しなやかに思考し、生き生きと学ぶ子どもの育成
	内容等	教材研究を基にした導入と展開の工夫
めざす授業の姿		個別最適な学びを通して子ども一人一人が問いと納得解がもてる授業づくり

福山市立湯田小学校

Ⅳ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（２月末）				
							□指標に係る取組状況	ﾌﾟﾛｾｽ評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	ﾌﾟﾛｾｽ評価	達成評価	総合評価	改善方策
1	児童の想いや考えを大切にし、よりよいものを創る力を育成する教育活動の推進	★1	見直し	○主体的な学びの実現	・個別最適な学び（選ぶ、決める）に取り組む。 ・形成的評価（授業づくりポートフォリオ）を活用して、児童のつまずきを把握し適切なアプローチができるようにする。 ・発達段階に応じてプランニングシートを活用したパワーアップ学習に取り組む。 ・授業、朝タイム、月1回の学力補充を通して基礎学力の定着に取り組む。	・【児童】意識アンケート自己選択・自己決定しながら学びに向かっている児童を80%以上にする。 ・【教師】意識アンケート学力調査等の分析による授業改善に取り組み、形成的評価を生かした授業づくりができている教師を80%以上にする。 ・パワーアップ学習において、学習時間や自分の課題に合った学習に取り組む児童を80%以上にする。 ・授業改善前と比べ力を伸ばした児童を増やし、40％未満の割合を減らす。 （CRT/福山市学力定着状況調査/全国学力学習状況調査）									
		2	見直し	○よりよい自己の実現	・児童会と連携した積極的生徒指導の取組と声掛けにより児童のポジティブな行動を増やす。 ・学校行事等を通して児童同士の相互評価（ニコニコメッセージ等）に取組む。 ・学びと生活（スマホ等を使う時間）について考えることを通してよりよい生活の仕方を身に付けさせる。	・「自分はよいところがある。」「自分は人の役に立っている。」と回答している児童の割合を 80%以上にする。 ・児童会主催の行事を年間３回以上開催する。 ・スマホやタブレットでゲームや動画視聴をする時間を見直し、１日３時間以上の児童を **30%以下**にする。									

			継続	○体力づくりに取り組む児童の育成	・選択できる運動の工夫や目標の自己決定により達成感を味わえるようにする。 ・運動する機会を継続して提供し、自分から運動するきっかけを作る。	・運動やスポーツをすることを「好き」と答える児童の割合を 75%以上にする。 ・週２回以上体を動かす活動をした児童の割合を 80%以上にする。 【児童アンケート】									
		３	見直し	○組織的に支え合う教職員集団づくりの構築 ○保護者・地域に信頼される学校づくり	・主任、主事が中心となり、各個人が役割を認識して補い合う組織づくり行う。 ・学校の様子を定期的に発信する。 ・児童の状況の把握に努め素早く対応できる組織体制を整える。 ・地域との繋がりを構築する。	・【教職員アンケート】やりがいを感じる教師の割合を８０％以上にする。 ・学校だより年 12 回，校長発信、年 10 回以上。 ・【保護者アンケート】年２回のアンケートを行い「安心して相談できる雰囲気がある」の肯定的な割合を 85%以上にする。 ・地域の方と学ぶ体験活動を各学年、年１回以上取入れる。									。

［プロセス評価の評価基準］

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

［達成評価の評価基準］

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

［総合評価の評価基準］

評点	評価基準	
5	１００％以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	８０％以上１００％未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	６０％以上８０％未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	４０％以上６０％未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	４０％未満の達成度	目標を達成できなかった。